

ユキモチソウ・ムサシアブミ及び

マムシグサの抑制栽培による開花調節

平井健一郎・濱谷修一

1997年度サトイモ科植物展(7.12~7.24)に開花株を展示する目的で、サトイモ科6種(ユキモチソウ、ムサシアブミ、マムシグサ、ウラシマソウ、ミミガタテンナンショウ、キバナテンナンショウ)の抑制栽培を試みた。6種のうち、ウラシマソウ、ミミガタテンナンショウ、キバナテンナンショウは、全く生長しないか一枚の貧弱な葉を展開するのみにとどまったが、ユキモチソウ、ムサシアブミ、マムシグサの3種が開花に至ったので記録する。

方法

1997年2月17日に休眠中の球根(ユキモチソウ15球、ムサシアブミ9球、マムシグサ1球)を湿らせたバーミキュライトの中に埋め込み、 $1^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ の低温貯蔵庫に入れて低温処理を開始した。この時、乾燥を防ぐ目的で、容器ごとビニール袋で密封した。1997年6月12日に低温貯蔵庫から取り出し、真砂土、バーク堆肥、ボラ土(小粒)の等量混合土に元肥として化成肥料を少量混ぜたもので5号鉢に1球ずつ植え付けた。

置き場は $15\sim 25^{\circ}\text{C}$ に設定した冷房温室のやや暗い棚下とした。

結果

植え付け時にはすでに芽が伸長し始めており、3種とも植え付け後は順調に生育した。

ユキモチソウは、15株の内1株を除いてすべて葉を展開させたが、開花に至ったものは10株で、到花日数は植え付け後7日であった。仏炎苞も正常に展開し、大きいもので草丈36cm、仏炎苞長14cmであった。3株は葉が十分に展開する前に開花したが、10株の開花はほぼ同時であった。

ムサシアブミは、葉が十分に展開していなかったものの、植え付けた9株すべてが植え付け後約7日で開花に至った。株の大きさは大きいもので草丈34cm、仏炎苞長9cmであった。

マムシグサは、1株植え付けたのみであったが、到花日数は植え付け後18日と、他の2種に比べて遅かった。草丈21cm、仏炎苞長8cmであった。

当初予定していたよりも非常に開花が早く、展示まで花がもたないと判断し、開花したもののすべての株についてベンレート水和剤の1000倍液を散布した後、段ボール箱に入れ、ビニール袋をかぶせて密封し、 $5\sim 6^{\circ}\text{C}$ の種子貯蔵庫(暗黒)に入れた。この処理は、ユキモチソウ、ムサシアブミでは開花後3日目に、マムシグサでは開花後1日目に行った。7月10日にユキモチソウ5株、マムシグサ1株を、7月17日に残り全ての株を展示場に移すまでの間、ユキモチソウ、ムサシアブミではそれぞれ19又は26日間、マムシグサでは10日間開花株を低温貯蔵したこ



ユキモチソウ



ムサシアブミ



マムシグサ

とになる。

種子貯蔵庫から取り出した際、ユキモチソウの花弁の縁にやや傷んだ様子が観察されたが、ムサシアブミ、マムシグサの花は非常によい状態であった。

展示は展示温室（温度なりゆき）で行なったが、ユキモチソウは4～5日程度と花持ちが非常に悪く、マムシグサもほぼ同じであったが、ムサシアブミは非常に花持ちが良く約3週間観賞することができた。

考察

低温処理の結果、自然状態より約2か月生育を遅らせ、植え付け後は非常に短期間で生長し、ほとんどの株で開花が揃う点において優れており、ユキモチソウやムサシアブミを夏期に開花させることが可能であることがわかった。ただし今回は、開花が予想以上に早く、展示のほぼ1か月前には開花していた。この対策として、

低温処理期間の延長が考えられるが、芽が伸長してきたにもかかわらず低温処理を続けることは貧弱な株になったり低温障害を招くなど、生育への様々な障害が懸念される。その他の対策として、低温処理温度をより低くすることも有効と思われるので、今後試してみたい。

次に、開花株の低温貯蔵では、ユキモチソウで少々傷みが見られたが、概ねよい状態で維持できた。ムサシアブミにおいては、展示場に移動させてからも長期間開花していたことから、開花株の低温貯蔵は特に必要なかったと考えられる。

今回行なった低温抑制栽培は、ユキモチソウ、マムシグサにおいては開花期間が短いことから、長期間の展示には不適当と思われる、植え付け時期の検討も必要である。また、ムサシアブミにおいては開花期間も長かったことから、非常に有効な手段であることがわかった。

人工湿原水槽におけるサギソウの栽培

和氣由紀子・飯塚 康弘

本園のシンボルマークであるサギソウを常設展示することを目的として、2月上旬、系統進化園の人工湿原水槽にサギソウの植え付けを行った。

植栽方法

既存の水槽は、内寸横190×縦80×深さ80cmのコンクリート製で、下層50cmは径5～15cmの碎石層である。今回は、深さ約20cmまでの表層

部の土を取り除き、ボラ土（微小～大粒）とミズゴケを配合し、マグアンプKを少量加えた用土に入れ替えた。

植え付けは、横24列×縦10列（240株）とした。

生育状況

全体的に生育不良で、枯死株が多く、開花に至ったものは10株ほどであった。この原因として考えられるのは次の2点である。(1)水槽の西側にあるスギ林が日光を遮り、日照不足が生じたこと。(2)排水のしくみがうまく働かず、水が停滞気味であったこと。以上の点については、今後改善の必要がある。



人工湿原水槽



サギソウ植栽の様子